

5月末発売

# 他者の声を聴く

## 在日朝鮮人文学への応答

宮沢 剛

在日朝鮮人の文学者や作中人物と向き合う中で、日本人としての自己を問い、構造化された差別への抵抗力を明らかにする試み。

A5判 ソフトカバー 304頁  
ISBN978-4-380-26003-2 C0095  
定価：本体2700円+税



他者の声を聴く  
在日朝鮮人文学への応答  
宮沢 剛

マジョリティに属する研究者が、研究対象の文学者や小説の主人公にとって自分は何者なのか、自分の研究を成立させている条件は何か等を問いつつ行う研究は、文学作品が自分にもたらす戸惑いや違和感を手掛かりに、文学作品が潜在的に持っている、構造化された差別に対する抵抗力を明らかにする可能性がある。本論に収めた論文の多くも、そうした視点を伴って書かれている。

三一書房 著者まえがきより

●もくじ●

- 第一部
  - 第1章 金史良「天馬論」植民地のハロニア小説
  - 第2章 一九五〇年代(から)の在日朝鮮人文学 はみ出すことと遅れること
  - 第3章 詩の生成—『チンダレ』『カリオン』と『琉大文学』
  - 第4章 在日文学者にとつての白樺派文学—普遍性をめぐって
  - 第5章 李恢成「伽椰子のために」論—非暴力的な〈読み〉の試み
  - 第6章 梁石日「夜を賭けて」論—想像力の国境線は越えられるか
  - 第7章 金時鐘の詩を読む—読むこと、「自由」と書くことの不「自由」
- 第二部
  - 第8章 フクシマ以後に金時鐘の詩を読む
  - 第9章 歴史を越境する詩—金時鐘「背中の地図」を中心に
  - 第10章 慰安婦・文学・植民地—朴裕河「帝国の慰安婦」の受容をめぐって
  - 第11章 「慰安婦」と小説—語り得ぬ記憶の表現をめぐって
  - 第12章 「事実の真理」と言葉—黄英治「前夜」と李龍徳「あなた が私を竹槍で突き殺す前に」の戦い方
- 第三部
  - 第13章 ケアとアイデンティティ—宗秋月の「もうひとつの声」
  - 第14章 偶有的生を祝福する—李良枝から温又柔へ

\*ご注文はお近くの書店、または三一書房まで

## 他者の声を聴く 在日朝鮮人文学への応答

宮沢 剛 定価：本体2700円+税

ISBN978-4-380-26003-2 C0095

本書を《 》冊、購入します。

お名前： \_\_\_\_\_ ご連絡先： \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

ご住所： \_\_\_\_\_

三一書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-1-6  
電話：03-6268-9714 HP：http://31shobo.com/

FAX：03-6268-9754